

白木氏の個性了

「
夏は鼻が長い
」

外山誠氏了

トボリ屋ナヤだレ

と云つても、人間がウナヤだつたりするはず
が有りかろ。理解はそこない。しかし、文法
から云えぬ、^{ボリ}は主語、ウナヤは述語で、
ボリウナヤで有るとい^ふつてゐることになる
おかしいと思ふ人があつてもおかしく有いか
おまゝにばなれ、^{これ}に有つてゐる。白痴語がわ
かりかけの外^⑤が^おもしろかつて、^はじめで
全行くのである。

「象は鼻が長い」という文が大正年間から

← ←
|

門家も悩ませている。最後、も主語、集が、
も主語。右とアのセンテンスに二つも主語が
あつては存らぬ。しかし、この表現は誤り
では無い。どう説明、合理化した方がいいか、
という事である。うまく解決する方法は見つ
からなかつた。

戦後に承つて三上章という人がおもしろい
説を出した。最後、は主語ではなくて主語で
ある。集が長いば主語と定語だというので、
これを二重主語でなくする。主語というの

→のようには範囲

ほー// にっ いて いえなかりを直す、いれは割割
のようなものでおと考える。副詞なう玉語に左
ぬるい。

三上章もこの説を 漢ハ鼻廿長イ 田へんる

しおせ版) という仮にしなか、保守的な学習

の改定するところと成るうなかつた。ところ

か思いかけ方いとこつに昔鳴者があうみぬた。

旧ソ連の言語学者が三上説も大発見のようた

もるはやした。ソ連から本の取文があるが、

題名が題名をからうてつてさう書誌と勘違いし

輸入書名が

の本

て、ゴキゴキとしたというエピソードがある。

「幾ハ鼻が長い」の伝ひのけ出し「おろは

ウナギだ」の説明もつく。成りは主語ひける

く主題、つまり動詞である。ウナギだには主

語がないが、意味を導き出すいひものをえらうの

は日本語の得意とするところだ、すこしも珍

しくない。

「春が来る」の春はまたすこし性格が違

う。一般には、春がはたして来るの結末と思わ

れているが、

主語

さうひびくつかまじいよ

い。春がは主語ではなく表語の一部であること
考えるのである。春が来るという一つの動詞
があると思えるのは抵抗があるかもしれないが
例をないあげてはよい。

主語のないセンテンスを認めない英語をや
つがいた問題は、主語を
ない動詞の存在である。雪が降る"は

原則として必要とし

It snows.

雪が降る"もこれは左方

snows

5

←

なりで、雪が降るの意匠に変わった。一般
にたこやこや増え法を旧来とするルールが確
定すると、それら合所せよ、しかたが無く、仮
日主情(一)を定めた。もちろんそれだけ雪が
の素直な感じが、まうまう形勢上の主情であ
る。おまじりかた

こうらう **郵詞** 意味を重し方の、このことを非人

性動詞と呼び、環境もさうつかうか強うている。

It rains (雨の降る) It blows (風が吹く)

It is Sunday today (今日は日曜日) である。

日本語の「春が来る」も主語と述語と考へ
 るので、英語の「雨が降る」も「風が吹く」と同
 いように、主語が動詞の甲に入つてしまつてい
 るとする。おもしろい。ヒカカ、主語が
 御物なのか日本語の特性である。主語のよう
 に見えても、考へばどうひありたい方がすくま
 くなる。長は身が長い。もさういふ。考へが
 るすれぬ。長い。は英語の非人称動詞に近い
 もうとする。これも可能である。

主語も関係するが、
 「は」と「が」の使い

方が厄介である。白紙持を勉強する外国人が
●「片」と「が」の讀いぬつりて迄々と清嘉を
尋ねるか、乃か否か納得いさない。当惑のこ
とで、白紙人自身、ぼつくりしたことを知ら
なりび一生を跨る。

説

●漢字の御頭で紙芥さんを経験者が

「めちんレが〇〇です」

とやつたところ、こて紙にうるさい人が馳走
の甲にいたらしん、

「いはまな」と

ど「う」声があがった。「へこ存知でしょうが」
あをくレが〇〇ひすんと刷張っていきよう
たがとうくうひあうう。

「あをくレは〇〇ひす」

なういのが、~~あをくレ~~やばりすこし落着か
い。「あをく」かしやまど、また

「〇〇と申します」

「〇〇ひす」

とする方が、しつたりする。日本は「あた

くレ」を「あたま」のが培成である。

「オクハシナギナギ」

にしてモ、
筆致

「イリナギ」

「~~オクハシナギ~~」

オクハシナギ

「~~オクハシナギ~~」